

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

December
2022 12

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年12月1日発行(毎月一回1日発行)第780号

● 出会い・本・人

皆川達夫著『洋楽渡来考』とその後 樋口隆一

● 特集 カルト問題を考えるなら

この三冊！ 齋藤 篤

● 本・批評と紹介

C・G・シュウエンツェル著／波部雄一郎訳

ヘロデ大王 小河 陽

スヴェトラナ山崎ひとみ著

微笑みは永遠に 笹森田鶴

潮 義男著 創世記講解下 鎌野善三

上垣 勝著 海鳥たちの遺言 小友 聡

土井健司著 教父学入門 津田謙治

桜美林学園チャプレン会 編著

無我夢中 西原廉太

松本宜郎著 初期キリスト教の世界 足立広明

「本のひろば」バックナンバー表

既刊案内

書店案内

日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ最新刊



VTJ 旧約聖書注解 申命記 鈴木佳秀

申命記の編集者や編纂者たちは、テキストに見られる「あなた」と「あなたがた」といった人称や数の交代現象や変化をなぜ残したのだろうか。長年申命記を研究してきた著者が、それらの痕跡に込められた編集者の意図に迫りつつ、この書物をもつ「謎」に挑む一冊。

2022年11月25日刊行予定 ◆A5判 上製・498頁・定価8,580円

好評発売中
シリーズ

- 『出エジプト記 1~18章』『出エジプト記 19~40章』 鈴木佳秀 各定価4,840円
- 『サムエル記上 1~15章』 勝村弘也 定価7,260円
- 『列王記上 1~11章』 山我哲雄 定価5,280円
- 『コヘレト書』 小友聡 定価3,520円

『信徒の友』2021年度連載を単行本化

使徒信条 平野克己 光の武具を身に着けて

洗礼から始まる、まったく新しい信仰の旅路。その途上には「罪と死と悪魔の力」との戦いが絶えないが、代々の聖徒は「光の武具」なる使徒信条を身に着けて、歩みを続けてきた。私たちもそこに連なる者。闇の深まる今の時こそ、使徒信条を学び直そう。

◆四六判 並製・128頁・定価1,430円

2022年11月15日刊行予定



好評発売中

『主の祈り イエスと歩む旅』 平野克己 定価1,430円



皆川達夫著 『洋楽渡来考』とその後

樋口隆一

立教大学名誉教授の皆川達夫先生が九十二歳で帰天されたのは二〇二〇年四月のことだった。十年以上続けられたラジオ第一放送の「音楽の泉」の解説を三月末に終えられ、程なくしてのことであった。悲しみも大きかったが、後学の徒として感じたのはむしろ、そのおみごとな終止符の打たれ方だった。

今年三月、先生の研究資料等が「明治学院大学図書館附属遠山一行記念日本近代音楽館」に搬入された。すると音楽司書から知らせがあった。いくつかの史料には「樋口先生へ」という大きな付箋が付いているという。それはただ事ではない。ある日の午後、それらに目を通すために音楽館に向かった。

閲覧室に運び込まれたたぐさんのファイルに目を通すと、例えば代表作『洋楽渡来考―キリシタン音楽の栄光と挫折』にも登場するスペインの聖歌のコピーなど、いわば先生の研究生生活の宝物の一端を示すものたちだった。なるほど、書庫の奥深くしまわれる前に見ておいてくれ、というおつもりだったのだろ

う。

『洋楽渡来考』は出版前に膨大な原稿を読まざるを得なかった。博士論文として明治学院大学に提出してしまったからである。主査は私、副査は国際基督教大学の金澤正剛教授と、明治学院大学の大原まゆみ教授（西洋美術史）だった。三人ともアメリカやドイツで苦労して博士論文を書いた人たちだったので厳しい議論となったが、先生はむしろそれを楽しんでいた。先生が残されたファイルには、『洋楽渡来考』成立の前後から新聞や雑誌に寄稿されたさまざまな論文やエッセイなどもあった。特に、先生ご専門だった中世ルネサンス音楽に関するものも数多く残されていた。これらを読んでいると、先生の『遺稿集』を編集しなくなってきたから不思議である。どうやら、先生の巧みな誘導に導かれているようである。

（ひぐち・りゅういち）明治学院大学名誉教授、音楽学者・指揮者



カルト問題を考えるなら

▼この三冊！

齋藤 篤

(さいとう・あつし)・日本基督教団仙台宮城野教会牧師・日本基督教団カルト問題連絡会世話人

去る七月八日、安倍晋三元首相が銃弾に倒れました。そのことがきっかけとなり「旧・統一協会（現・世界平和統一家庭連合）」についての報道が連日なされるようになりました。

今からちょうど三十年前の一九九二年、同様に世間を騒がせたのが、旧・統一協会による「合同結婚式」でした。あれから三十年、「まさか統一協会問題が続いていたなんて」という声を最近よく耳にします。

今般の旧・統一協会問題を通じて、まれるのかという、書籍のタイトルにあるテーマについて、浅見氏は旧・統一協会、旧・オウム真理教の事例を挙げながら解説します。

いわゆるカルト宗教というものは、人間社会に破壊的な影響をもたらすと、浅見氏は強調します。単に人々の目から見て「奇異」に見えるからという理由で、カルト宗教と断定するのではなく、人間が本来持つべき人格を破壊し、精神的・身体的・経済的・社会的な人権というものを破壊する影響力を持つのがカルト宗教であると定義します。「破壊的カルト」と呼ばれるゆえんが、ここにあります。

浅見氏は、一聖書学者として、カルト宗教は、聖書が本来伝えている「神の愛」というものを曲解し、人々を支配し、餌食とするために聖書を誤用・悪用していると、聖書が伝える「神の愛」の本質に沿って批判します。カル

私たちは「カルト問題」について、改めて考える機会が与えられていると私は感じています。そこで、私たちはカルト問題についての基礎的な知識を持ち、偏見のない知見と理解を深めるために、参考となるような書籍を三冊、ご紹介したいと思います。

まず、ご紹介したい書籍として挙げることができるのは、『なぜカルト宗教は生まれるのか』（浅見定雄著、日本基督教団出版局）です。一九九七年に発行された書籍ですので、古典的

ト問題対策とは、まさに愛の回復作業であり、カルトメンバー本人に向き合う家族も、愛の回復を目的とするところにこそ意味があることを力説します。

さて、カルト団体が人々を引き込むために用いる手法として「マインド・コントロール」があります。マインド・コントロールとは何かについては、一九九三年に浅見氏によって翻訳された『マインド・コントロールの恐怖』（S・ハッサン著、恒友出版）によって、日本に広く紹介されました。その著者であるハッサン氏によって出版された続編が『マインド・コントロールからの救出』（S・ハッサン著、中村周而・山本ゆかり訳、教文館）です。本書は、米国統一協会幹部であったハッサン氏が、自身の経験について理論的かつ実践的に解説した一冊です。

まず、マインド・コントロールとは何かについて、その原理と特徴につ

思われるかもしれませんが、書かれている内容は決して色あせてはおらず、私たちにカルトとは何かということをご丁寧に伝えようとする著者の熱意が表れている一冊であると言えるでしょう。

一九九五年、地下鉄サリン事件や坂本堤弁護士一家殺害事件などをはじめとする、いわゆる「オウム真理教事件」が日本中を震撼させました。そして、旧・オウム真理教こそ、カルト宗教の代名詞と言われるまでになりました。

著者の浅見定雄氏は、旧約聖書学者として、東北学院大学で教鞭をとるなかにあつて、旧・統一協会に入会していく大学生たちに憂慮し、カルト宗教対策・救済活動に取り組みされました。その実践活動を通して、カルト宗教とは何か、カルト宗教に魅了され、やがて餌食にされていく人々の心理とはどのようなものか、なぜカルト宗教が生

ての詳細な説明がなされ、続いて、脱会のための戦略的なプログラムについて、ハッサン氏の実践に基づいた解説が記されています。

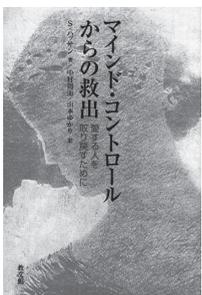
その際、信者本人の状況をよく見極めること、愛する者の脱会には、家族をはじめとする周囲がチームで取り組み、混雑し、一見矛盾するように見える、本人から発される数々の情報を整理すること、良質なコミュニケーションを構築し続けること、カルトメンバーが必ず感じるようになる恐怖感を和らげること、本人が考える自由を与え、自分自身で物事を判断できるように促すことなど、カルトメンバーに向き合ううえで重要なポイントを、丁寧に解説しています。

ハッサン氏は、本書のまとめとして「すべての人が協力して支援しなければならぬ」ことを強調します。あくまで、カルト問題は本人の自己責任の



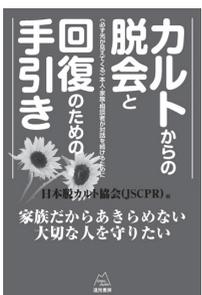
『なぜカルト宗教は生まれるのか』

浅見定雄：著
日本基督教団出版局
1997年刊
四六判 248頁
2,200円



『マインド・コントロールからの救出 ——愛する人を取り戻すために』

S・ハッサン：著
中村周而、山本ゆかり：訳
教文館
2007年刊
四六判 381頁
2,750円



『カルトからの脱会と回復のための手引き《改訂版》 ——〈必ず光が見えてくる〉本人・家族・相談者の対話を続けるために』

日本脱カルト協会：編
遠見書房
2014年刊
四六判 238頁
2,090円

問題ではなく、周囲がいかに愛をもって寄り添い、本人の人間性回復のために協力することを惜しまず、あくまで肯定的に、支援の手を差し伸べ続けることができるかが、脱会に向けた大きな鍵を握っていることを訴えます。自由と寛容の世界こそが、カルトに陥った人々に対する偏見を無くし、マインド・コントロールからの解放に無くてはならないと本書を締めくくっています。

では、私たちはカルト宗教にどのように向き合い、カルト宗教に囚われている、愛する家族や友人とどのように向き合えばよいのでしょうか。先行きが見えないなかで具体的な助けを提供する一冊として、『カルトからの脱会と回復のための手引き《改訂版》』（日本脱カルト協会編、遠見書房）を最後に紹介したいと思います。

編者である日本脱カルト協会は、破

壊的カルトの諸問題の研究を行い、その成果を発展・普及させることを目的としたネットワークです。心理学者、聖職者、臨床心理士、弁護士、精神科医、宗教学者、カウンセラー、ジャーナリスト、そして「議論ある団体」の元メンバーや家族等により構成され、一九九五年に「日本脱カルト研究会」として発足されました。旧・オウム真理教による地下鉄サリン事件が起き、教祖である麻原彰晃（本名〓松本智津夫）氏が逮捕された年です。その後、カルトに向き合い続け、二〇〇四年には現名称に改称されて、今日に至ります。

本書は、日本脱カルト協会に関わり続けた約二十名の方々の共著によって二〇〇九年に出版されました。これまで、具体的かつ実践的なカルト宗教対策をまとめた出版物がなく、実際にカルトメンバーに向き合ってきた家族が、

を脱会し、その後、どのようなプロセスを経て、マインド・コントロールから解放されていったか。脱会後の回復について、詳細に記されています。もちろん、ケースはそれぞれに異なりますが、カルト問題が引き起こす傾向というものには共通性があり、カルト対策

についての基本的な心構えを理解する大きな助けとなることでしょう。

以上、紹介をしました三冊の他にも、カルト問題について考えることのできる書籍は多くありますし、今後も現在の旧・統一協会問題をはじめとする、カルト問題に関連する書籍が出版され

五里霧中のなかで、まさに光明を見いだすきっかけになった一冊と言っても間違いのないでしょう。

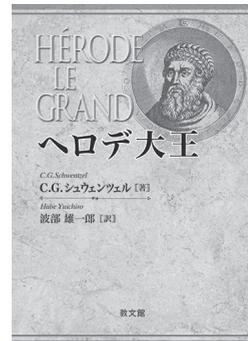
カルト問題が、単なる「宗教問題」にとどまらず、心理学的・社会的・法的な側面から、その道の専門家によって執筆され、一冊の書籍にまとめられたのは、まさに画期的なことでした。まえがきには「常備し」、「座右の書にし」、「役立つこと」を目的とした書籍であると書かれているとおり、以後、カルト問題対策の当事者や興味関心のある多くの方々に読み続けられていく一冊です。

この本の特徴として挙げられるのは、カルト問題にありがちな疑問や質問に対して、Q & A方式で説明されていることです。また、多くの事例が収録されていることも特筆すべき点です。カルトメンバーだった当人と、その家族が、どのような過程を経てカルト団体

ていくことを期待したいと思います。決して、対岸の火事ではなく、私たちの生活のただ中に存在するカルトの根というものが、芽吹き、成長することのないように、これからも関心を抱き続けていくことが重要です。

ヘロデ大王とその後継者たちの
歴史的事実に迫ろうとする意欲作

〈評者〉 小河 陽



ヘロデ大王

C・G・シュウエンツェル 著
波部雄一郎 訳



ローマ皇帝アウグストゥスをして「ヘロデの息子であるよりは豚である方が良い」と言わしめたと伝わるヘロデ大王と言えば、残酷で陰險な暴君というのが一般的な印象である。しかし本書は、このようなネガティブなヘロデ像を相対化して、ローマとユダヤ人の双方を同時に見る二面性を持った複雑な個性として見極めようとする目的のもと、彼の王国のイデオロギーや政策など、テーマ別にまとめた考察を一般読者向けに読み易い筆致で提示している。

全体は四章に分けられ、第1章では、ハスモン王国の片隅の地イドマヤの地方長官にすぎなかった父アンティパトロスの台頭からヘロデによる権力の掌握、そして皇帝の友として権力の絶頂に至るまでの歴史的展開が、必要十分な情報をもって辿られる。

第2章は本書の特色を成しているテーマでもある「プロ

パガンダと王のイデオロギー」を取り上げ、ヨセフスの記述や碑文、また硬貨に残された数々の図案、とりわけその頭飾りと冠などの分析を通して、ヘロデのイデオロギーの復元を試み、ヘロデ王朝がユダヤとヘレニズムという「二つの顔」の特徴を持っていたことを論じる。

第3章では宮廷の様態、行政機構、王国財政が取り上げられるが、全体として示されるのは、ヘロデの豪華な生活と壮麗な建造物など、豪華な環境と生活様式はヘレニズム時代の諸王と共通しているながら、そこにユダヤ教の規律と両立し得る生活が存在していたということである。

第4章のテーマはヘロデの後継者たちの治世であるが、二面性を持ったもうひとりの王アグリッパ一世を除けば、いずれも時代環境の中を巧みに立ち振る舞う才覚も能力も持ち合わせることもなかった様子が描き出される。

一九世紀以降の実証的研究、そしてまた本書の中でも紹介されている様々な先行研究の中で、「残酷な暴君」だけではなかったヘロデの優れた政治的才覚と手腕が確認されてきた中で、本書に見られる独自性を挙げるとすれば、訳者があとがきの中で好意的に指摘しているように、特に第2章に提示される解釈であろう。先行研究の多くがヘロデにとってユダヤ教の伝統と律法の尊重は政治的利用のための表面上のものに過ぎなかったのに対して、著者はヘロデのユダヤ教信仰が実質を伴うものであったと主張する。そのために、マサダ出土の壺に認められるラテン語銘文「ユダヤ人ヘロデ王に」を「ヘロデ王に、ユダヤ人に適切なものとして」と読み、ワインがユダヤ教清浄規定に従ったものであるとまで結論する(九二頁)。だが、タキ

トゥスのベレニケ描写 Florens aetate formaque を「花のように美しい盛りの」と訳す著者のラテン語読解(二六二頁)同様、素直には領けない。それは、ヘロデの宮廷がギリシア教育を受けた者たちに取り巻かれ、王国の非ユダヤ的諸都市に異教神殿を建てさせたような側面を打ち消すほどのユダヤ的性格なのか。驚をケルビムと同一視して、神殿の門上への驚の設置が第二戒の古い聖書解釈に回帰するものとの主張は文献証拠で支持されるのか。著者独自の主張が説得力を持って展開されているか、読者の判断が待たれるところである。

とまれ、エトナルケースがエトナルコスとなるなどには気になるが、こなれた訳文には、その労を多としたい。

(おがわ・あきら 前関東学院長、立教大学名誉教授
A5版・三三〇頁・定価三三〇〇円・教文館)



田中正造

その生と信仰

石田 健
Tsuyoshi Ishida



田中正造は、谷中の戦いの中で、その生をキリスト教信仰に委ね、現実にしっかり足をつけて神の道=人の道を歩む、それは宗教人間になることではなく「人間になる」ことであった。

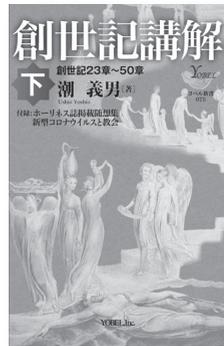
四六判・並製
定価 3,520 [本体 3,200 + 税] 円
ISBN978-4-86325-142-7



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

読者に族長の物語を
通して神の祝福を提示

〈評者〉鎌野善三



創世記講解 下
創世記23章～50章
潮 義男著



著者は私と同じ年齢ということだけで、親しみがわいてきました。読んでみると、アブラハム・イサク・ヤコブの生涯が生き生きと語られており、自分が共に礼拝に参加しているような気持ちになりました。

あとがきによると、本書は二〇一八年五月から二〇二一年一月までに月一度、仙台青葉荘教会で語られたもので、創世記二三章から五〇章が二八篇の説教にまとめられています。「講解」という書名ですが、字義的な解釈は必要最小限で、三人の族長の生涯が物語風に語られており、非常に読みやすい内容でした。さらに、新約聖書とのつながりもあちこちに言及され、聖書全体を貫くメッセージとなっていることに感銘を受けました。本書の特色は、次のような4つにまとめられると思います。

まず一つ目。多くの説教が興味深い話で始まることです。

が、この説教を聞いている教会員には、どなたのことかすぐわかると思います。族長の生涯を描く中でわかりやすい例話となり、聖書が過去の物語というだけでなく、今この時に生きている聴衆の物語となっています。

四つ目に、説教の終わりには必ずといっていいほど、イエス・キリストとの繋がりが記されています。族長たちの葛藤や苦難を通して、神の祝福が示されているのです。「アブラハムの神・イサクの神、ヤコブの神はイエス・キリストとなられ、キリストの十字架の贖いによって、わたしたちは神の子とされるのです」(二八頁) いう一文は、それを見事に表しています。

末尾に近い四八章の講解で、「創世記は、祝福の物語といえるでしょう」と著者は記しています(二二八頁)。上

「戦後、女性と靴下は強くなった」。ブラジル移住一一〇周年。ガーファンクル作詞の「青春の旅路」。中高年の引きこもり。エンディングノート。「あれ何?」と思う間に、その章の主題に引き込まれていきます。説教の導入部がどれほど大切かを教えられました。

二つ目は、族長三人の生涯が、特に家族との関わりの中で語られていることです。もちろん神様との関係が第一なのですが、それがどう家族との関係に影響をもたらしているかが語られています。アブラハムとサラ、イサクとリベカ、ヤコブとラケル。それぞれの夫婦関係がどうであったのかに鋭い光が差し込まれます。また、ヤコブとエサウやヨセフと兄たちの兄弟関係の描写も興味深いものです。

三つ目は、教会員の証しが、あちこちに散りばめられていることでしょうか。本ではイニシアルで書かれています。巻で扱われていた「産めよ、増えよ、地に満ちよ」という祝福が、アブラハム、イサク、ヤコブに代々受け継がれてきた。さらにその祝福の継承は、祭司による油注ぎという形で旧約聖書の中に流れている。そしてそれは、現在の世界にも及んでいる。本書はまさにその祝福を読者に提供しようとしているのでしょ。

巻末には付録として、「ホーリネスの群」の機関誌に寄稿された説教や証しなどが掲載されています。特に、戦中の弾圧の歴史の叙述には心打たれました。日本キリスト教団の中にあつて、ホーリネスの信仰を堅持し伝えておられる著者の姿勢に誠実さと暖かさを感じます。

(かまの・よしみ) 日本イエス・キリスト教団西宮聖愛教会牧師
(新書刊・三四四頁・定価一三三〇円・ヨベル)

ヨベルの新刊案内

伊東寿泰 (立命館大学教授) 英語の環境作りのススメ
これで変わる! あなたの英語力!
四六判・272頁・1980円

英語を身につけて何がしたいですか?
□映画「スターウォーズシリーズ」を字幕なしで楽しみたい! □ネットの海外ニュース、SNSを生英語で体感したい! □ネイティブの友達と心おきなく語り合つのが夢! そのためには、**聖書は英語の学びや異文化理解にも役立つ!**

山口勝政 (八幡キリスト教会牧師) **みことばの楽しみ**
反響! 新書刊・236頁・1320円
私を生かしてください。
「みことばに生きる者の幸い」が基調
になっているこの長大な詩篇を精読
と黙想とによって時間をかけて深く
味わい、そのみことばの奥に隠され
た祝福の果実を分かち合う。

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

世界と人のために 希望の種を蒔く

〈評者〉 小友 聡



海鳥たちの遺言
世界と神を黙想する
上垣 勝著



『海鳥たちの遺言』というタイトルが目を引きまします。何の本かと思う方がいるでしょう。これは上垣勝牧師が四七年におよぶ伝道牧会を終え、引退後に上梓された説教集です。「海鳥たちの遺言」とは、海岸に打ち上げられた海鳥たちの死骸のこと。死んだ鳥たちの腹の中に、飲み込んだペットボトルの蓋やプラスチックのかけら、発泡スチロールのかけらなどが詰まっています。鳥たちはそれを排泄できず、ため込んで死んだのです。この海鳥たちの「遺言」という象徴的な言葉を上垣先生は説教集のタイトルに選びました。

この説教集は、生態的破局の現実を紹介しながら自然と共に生き、また社会の不正や歪みを見つめ、弱い人々の傍らに立つて語りかける上垣先生の珠玉の説教を集めたものです。聖書の福音の世界が優しい語り口で説かれ、心に沁

みます。本書を読了して評者は心が癒やされ、優しい気持ちにさせられました。このような説教を毎週傾聴できた教会の信徒の方々はなんと幸いかとしみじみ思います。

著者の上垣勝牧師は神学大学を卒業後、長く九州、東北、北陸の教会で牧師をし、最後は東京教区北支区の板橋大山教会で一三年間牧師をされました。かつて弘前南教会の牧師時代の上垣先生に評者は出会いました。伝道することが楽しくて仕方がないという雰囲気伝わってくる、深淵とした魅力的な牧師でした。その後も繋がりがや交流がありました。最初の出会いから四〇年が経ち、コロナ禍の中、先生は自転車で一時間かけ板橋から評者の中村町教会の礼拝に出席してくださいました。上垣先生の心意気に感動しました。引退後、少しも自分を誇らず、他者に仕える道を選ぶ先輩牧師がいることを評者は誇りに思います。

本書に収められた説教はすべて板橋大山教会で語られたもの。教会員だけでなく、子どもたちにも優しく語り掛けています。説教集は三部構成です。第一部「自然・環境」、第二部「人間の道」、第三部「小さき者を用いる神」という章立てがされます。自然環境破壊の現実、地震と原発問題、平和と戦争責任の問題、障碍者や高齢者問題など身近な問題に触れながら、キリスト者はどう生きるべきかを教えてくれます。原発稼働を憂慮する上垣先生は東日本大震災前に地震による原発の破局的災害を警告していたことがわかり、驚きました。また、アウシュヴィッツ強制収容所に触れ、ドイツのメルケル元首相についても印象深く語られています。キリスト者が社会において倫理的に生きる必要を強く教わります。もう一つ、上垣先生の特別な関心は

ヨーロッパのテゼ共同体に向けられています。社会問題、政治問題に触れながらもキリスト者の霊性を大切に考えることに先生御自身の信仰姿勢があります。

あとがきの言葉が心に深く沁みます。「希望の種を蒔こう。地球も人の世も荒野になる前に。心折れそうな時にも奮い立たせてくれるものがあれば、希望をもって前進できます。平和と喜び、希望と愛、信仰の勇氣。それらが活き活きと湧き上がる泉を見出し、行き詰ってもそこから何度も再出発すればいい」(二〇三頁)。その通りです。四七年伝道牧会に人生を捧げてこられた上垣勝先生の渾身の説教集を皆さんに心から推薦いたします。

(おとも・さとし) 東京神学大学教授・中村町教会牧師
(四六判、二〇八頁、定価二四二〇円、日本キリスト教団出版局)

三浦綾子生誕100年記念出版
あらすじでたどる三浦綾子の世界



あらすじで読む 三浦綾子 名作36選

森下辰衛 監修 森下辰衛
上出恵子 著
奥野政元

『氷点』『塩狩峠』『海嶺』『銃』など、三浦綾子の作品から36作品を厳選し、三浦文学の専門家3名が「背景と解説」「あらすじ」を紹介する。三浦文学の魅力が詰まった一冊。
四六判・160頁・定価1760円

「老いは恵み」であるワケを語る



老いと祝福

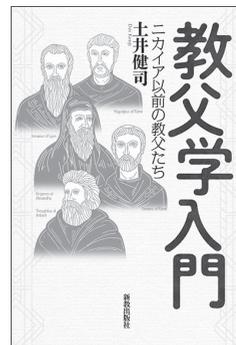
石丸昌彦

祝福とは何か。クリスチャンの精神科医がその意味を聖書からひもときつつ、老いの恵みを考える。超高齢社会を直視しながら、健やかな日々を過ごすコツを伝授。
四六判・216頁・定価2420円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

それぞれの主題を抉り取る 独自の手法が光る

〈評者〉津田謙治



教父学入門

ニカイア以前の教父たち

土井健司著



使徒たちの活動が終わったのち、教会の礎を築いた古代の神学的著作家たちを一般的に教父と呼ぶが、彼らの思想や位置付けを学ぶ手引きとして著されたのが本書である。著者の土井健司氏は、ニュツサのグレゴリオスの思想を中心に、古代教父に関する多くの著書や訳書を公刊するとともに、生命倫理など現代の諸問題についても様々な媒体で議論を展開している。本書は、「あとがき」で述べられている通り、近年様々な教父たちの優れた訳書が刊行されていることは対照的に、教父学全般を見渡し、その道案内となる書籍が少ない今日の状況を鑑み、書き起こされた。なお、『福音と世界』の二〇一九年九月号から二〇二二年三月号までの連載原稿が、本書の基となっている。

本書は、教父学の定義や昨今の研究状況を概観する序論に始まり、四世紀前半までの教父たちの生涯や思想を論じ

取れている。しかし同時に、テクラやペルベトウアなど、一般的には教父に分類されないが、古代における女性の視点などを積極的に議論の俎上に取り上げている点は特徴的である。これらの項目は、全三〇章のうち、一章に一人もしくは一つの作品を扱うのではなく、ユステイノスなど二章に分けて論じられている者もあり、オリゲネスについては四章にわたって議論が展開されている。教父の生涯、著作、その特徴的な思想が論じられる点で、従来の教父の概説書と並ぶオーソドックスな構成と言えるが、それぞれの教父たちの主題を抉り取る手法は、著者独自の視点が存分に活かされている。例えば、ローマのクレメンスは信徒同士の「嫉妬」に立ち向かう者として、ユステイノスは「声」としての言葉（ロゴス）に意識を向けた者として特

ている。ここで扱われているのは、およそ五つの「使徒教父」文書（ローマのクレメンス、イグナティオス、ポリュカルポス、『ディダケー』、『ヘルマスの牧者』、弁証家および異端反駁者に位置付けられる三人の人物（ユステイノス、エイレナイオス、テオフィロス）、女性に焦点を当てた三つのテキスト（『ヤコブ原福音書』、『パウロとテクラの行伝』、『ペルベトウアとフェリキタスの殉教』）、地中海東方のアレクサンドリアで活躍した三人の人物（アレクサンドリアのクレメンス、オリゲネス、大ディオニュシオス）、ローマやアフリカなど西方で活躍した三人の人物（ヒッポリュトス、テルトゥリアヌス、キプリアヌス）、そしてオリゲネスに強い影響を受け、パレスティナやカッパドキアなどで活躍した二人の人物（グレゴリオス・タウマトウルゴス、エウセビオス）で、地域や主題のバランスが

微が描き出される。このような、明確な主題を掲げつつも、当時の時代や思想状況に気を配る論じ方は、少なくとも入門書として類書は存在しないであろう。

著者の他の専門書や訳書も非常に読みやすい日本語で書かれているが、本書も同様に、時に複雑で錯綜する教父たちの議論が分かりやすく記述されている。しかし、それは議論の省略ではなく、咀嚼され、またジェンダーや近年の感染症など新たな現代的視点とともに捉え直されており、他分野だけでなく近接する領域の研究者にとっても刺激的な著作である。今後、本書に引き続いて、カッパドキア教父など四世紀後半以降の思想家たちがどのように扱われるかが気になるところである。

（四六判・二六〇頁・定価二四二〇円・新教出版社）



新刊

アガペーとフィリア

愛についての聖書学的考察

ἀγάπη καὶ φιλία

LITHON

アガペーとフィリア

愛についての聖書学的考察

原口 尚彰 著

●A5判並製 158頁
定価 1,760円

「愛」はキリスト教倫理の中心的主題の一つであるが、その起源は旧約聖書の神学考察の出発点である。本書は聖書に描かれている愛の多様な実態を確認すると共に、聖書における愛の分析を行って、聖書が語る愛の主題の全体像を明らかにする。

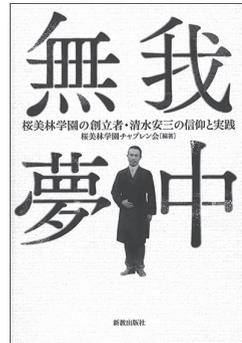
ISBN978-4-86376-093-6

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

「福音と宣教」に責任を 持つ人々の必読書

〈評者〉西原廉太



無我中夢
桜美林学園の創立者・
清水安三の信仰と実践
桜美林学園チャプレン会編著



本書は、桜美林学園のキリスト教教育に従事するチャプレンたちが、学園主導の周年事業とは別に、独自に計画、出版したものである。桜美林学園の創立者、清水安三をキリスト教神学の視点から立体的に考察した先行的作業はこれまででなく、単なる創立者賛美に留まらない「人間・清水安三」を生き生きと浮き彫りにしている。

第一章では、安三の生涯から受洗までの歩みを丁寧に辿る。安三が育った厳しい家庭環境と、彼の人生を変えたウィリアム・メレル・ヴォーリズとの出会い。とりわけヴォーリズの「からし種」のように小さくとも神を信じる信仰を持って行動することへの確信は、安三にもしっかりと受け継がれている。それは、清水安三の桜美林教会礼拝における以下の言葉にはっきりと表現されている。「同志社の石ころでも新島先生になれる。からし種一粒ほどの信仰があれば何でも出来ます」。この「からし種」「石ころの

精神」は、その後の安三の一貫してぶれることのない原理となった。

第二章は同志社時代の清水安三の信仰と神学の形成を論じる。安三にとって新島襄の生き方は「夢」であった。しかしそれは、新島の才能への憧れではなく、神が石ころから起こした者として、自らの生涯と理想的に重ね合わせるものであった。安三の自由主義神学的、包摂主義的側面、中江藤樹への共鳴等に言及しつつ、彼の中には神と人との関係の超越性に基づく罪性、劣等感から救われたという信仰が存在したことが明らかにされる。

桜美林学園は昨年百周年を迎えたが、それは清水安三が一九二二年に中国北京において崇貞学園を創立したことを起点としている。第三章では、実に二二年以上に及ぶ安三の中国での働きについて記述する。安三は、北京・朝陽門外の貧しさと苦難の内にある女子たちの人権・自立・教育

の桜美林学園創立を物心共に支えたのは、実にあの賀川豊彦であった。「稀代の教育者であり宗教家であった清水安三」。「あとがき」を執筆した前桜美林大学学長、広島女学院院長・大

学学長の三谷高康は、こう清水安三を表現する。本書を最初から最後まで読み通した者は皆、清水安三はまさしく「稀代の教育者であり宗教家であった」ことに同意するだけでなく、安三という人物についてはより知られるべきであると確信するに違いない。キリスト教教育関係者はもちろん、日本という地における「福音と宣教」に責任を持つ人々にとっての必読書が、〈今・この時〉に出版されたことを心から感謝し、喜びたい。

(にしはら・れんた)立教大学総長・キリスト教学校教育同盟理事長

(A5判・二二八頁・定価一九八〇円・新教出版社)

のために崇貞学園を創設した。その精神は、清水安三の生涯を貫く生き様であった。日本が中国で植民地を拡大し、横暴なる侵略・支配を繰り返した中であって、徹底して中国人の人々に寄り添った安三は、確かに驚くべき本物の国際人であった。清水安三は一九二四年に二年間、米国オーバリン大学に留学している。第四章は、この米国留学時代に形成された神学が何であったのかを、批判的にも検討する。安三は、歴史的に抑圧されてきた黒人が背負う十字架の意味を十分には理解し得ていなかったのではないかという指摘は、一方で重要な視点を提供する。第五章では、敗戦直後、中国から引き揚げて一週間も経たない間に、淵野辺の地に土地と建物を借り、桜美林学園を設立した清水安三の熱情と尽力が豊かに語られる。安三

新刊

ある牧師の眼
その視線の先にあるもの
栗原 茂 著
日本福音ルーテル教会引退牧師
●四六判並製 349頁
定価 2,200円

第一部では、少しだけ生い立ちを記しました。第二部が、この本の出版の動機であるルーテルアワー・フォローアップ誌のコラム「ある牧師の眼」に連載されたエッセイです。およそ十三年余、毎月書き続けた「コラム」の一部です。…第三部は、思いがけない経緯で、ブライダル業界という沖合へと漕ぎ出すことになった十年間、および宣教の現場で、折々に書きつづいた文章です。…そして第四部は十回に及ぶ聖地探訪の旅からの土産話です。…ああこういう人生を歩んだ牧師もいたかと、少し興味をもって読んでもらえれば望外の喜びです。(「まえがき」より)

ISBN978-4-86376-094-3
LITHON [リトン]
〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

キリスト教は 地中海世界を変えたのか

〈評者〉 足立広明



初期キリスト教の世界
松本宜郎著



「長期持続する志」。本書を手にとり、こんな言葉が思いついた。ブローデルと大江健三郎のつぎはぎのようで恐縮だが、確かにそう思える。本書を構成する各章は、発表の場所も時期も、対象とする読者、聴衆も異なっている。しかも基本的に手を加えていない。それがまるで一気に書き下ろしたように、一貫した叙述となっているのである。

著者の問題意識は明快である。それは初期キリスト教の歴史をローマ史の文脈のなかで理解するということである。本書の各所で確認しうるが、自身の研究生活を振り返りながら全体の構想を示す第1章によると、この問題意識は、まず「ヘレニズム・ローマ史研究のスタンスでキリスト教史をみていた」秀村欣二教授に触発され（12頁）、ついで荒井献氏や田川建三氏の研究に刺激を受け（13―14頁）、しかし教会史ではなく、「初期キリスト教をローマ史の視

覚で研究したい」との構想を弓削達氏に語ったところ、新約聖書時代よりやや下った迫害時代に焦点を絞ることを示唆されて定まったとされる（16頁）。

キリスト教徒に対する迫害については、かつては、帝国側の激しい迫害に殉教者を出しながらも耐え忍んでついに勝利する、といった描かれ方が横行していた時期もあったが、著者はこうした二項対立の図式とは決別し、別の見方を提示しようとする。それは、散発的な迫害以外の長い期間と広い地域を視野に入れ、キリスト教徒がほかの地中海の人々とのような価値観や生活態度を共有し、またどの点が異なっていたかに焦点を当て、彼らが最終的に地中海世界を変えたのか、それともあまり変えなかったのかを問うという観点である。迫害という事象自体もこうした「長期持続」の広範囲な生活空間のなかから逆に捉え直される。

この観点から、あるときはモラルや性的規範に、あるときは奴隷や女性に、あるときは職業に、またあるときは教会間交流に、さらに「異」教哲学者の見たキリスト教徒や、イタリヤという地域で見た場合の変化など、章によって多様なテーマが論じられていく。

その立論は、マクマレンに代表されるような、「あまり変化させていない。むしろ周囲のローマ人と共通する点が多かった」という、多分に伝統的教会史観への批判を込めた近年の研究成果を尊重しつつ、ではなぜキリスト教が最終的にローマ帝国で優位を占めていくのかを探ろうとするものである。そして、社会史や心性史、それにブラウンに代表される近年の古代末期研究から導き出されるように、「異」教とキリスト教で共通する部分は多くとも、都市共同体やその主体となる上層市民の枠を超えた一つの信仰共同体を作ろうとする点、たとえば遠隔地の教会とも一体化を保とうとする一方、女性や奴隷も神の前では等しく救済に与る人間と見なすなど、その生活態度や心性において古代末期の社会変化に適合する新しい見方を提示できていたのだ、とするのが各頁で語られる著者の見方である。

本書のなかでは、比較的時代の下るキリスト教公認後の教父アタナシオスに焦点を当てた、新しいエリートである

司教の出現について分析する章（第8章）でもこの視点は貫かれている。彼の個々の行動は元首政期のパトロンのようであり、彼を支持する民衆の動きもけっして新しいものではない。しかし、こうした民衆の支持を背景に皇帝と交渉し、論敵を蹴落としていく人物は以前にはなく、一方それ以降の司教には見出せるのである。アタナシウスと同時期の帝国と社会のキリスト教化について、コンスタンティヌスの後継者コンスタンティウス二世の長い統治に注目する視点も、あらためて炯眼であると感ぜさせられた。

伝統的にローマ史は、史料の性格上からも上層市民の政治史が主流を占め、一方教会史は信仰と教義を重視する。しかし、初期キリスト教に関係する史料は、宗教的偏りは別として、当時の上層市民でない人々の生活を垣間見させる貴重な史料である。松本氏は、この史料を出発点に、二つの領域を横断して歴史を考へることの大切さを示唆している。また、上述の日本人研究者だけでなく、海外の主要な研究の流れを知る上でも本書は手際がよく、この時代について知ろうとするすべての人にとって良き導き手となると思われる。

（あだち・ひろあき 奈良大学教授）

（四六判・四〇〇頁・定価三三〇〇円・新教出版社）

『本のひろば』のバックナンバーを Web 上で閲覧できます。下記アドレスから「『本のひろば』バックナンバー」にアクセスしてください。

<https://honhiro.com/>

2021年11月号

巻頭エッセイ：「見えない線」を求めて 島田由紀		
民主主義を学ぶならこの三冊！ 柳父園近		
N・T・ライト新約聖書講解9 すべての人のためのローマ書1	N.T.ライト著、教文館	鎌野直人
聖書に聴く「人生の苦難と希望」	船本弘毅著、教文館	高橋貞二郎
十四歳からの読書ナビ	小原信著、教文館	柴崎聰
ヒッタイトの歴史と文化	ビリー・ジーン・コリンズ著、リトン	石川立
「原罪論」の形成と展開	上智大学中世思想研究所編、知泉書館	田中裕
目はかすまず気力は失せず	関田寛雄著、新教出版社	沢知恵
新約聖書註解Ⅻ テモテ・テトス・フィレモン書	ジャン・カルヴァン著、新教出版社	飯田仰
キリスト教思想史の諸時代Ⅲ	金子晴勇著、ヨベル	阿部仲麻呂

2021年12月号

巻頭エッセイ：子どもたちへの言葉の力強さ 笹森田鶴		
クリスマスを味わうならこの三冊！ 水野隆一		
ヨブ記注解	並木浩一著、日本キリスト教団出版局	及川信
我が国籍は天に在り	船戸良隆著、日本キリスト教団出版局	小友聡
遺跡が語る聖書の世界	長谷川修一著、新教出版社	山野貴彦
〈スコットランド信仰告白〉 による信仰入門	原田浩司著、一麦出版社	伊勢田奈緒
イエスさまについて行こう	ソーニャ・M. スチュワート著、一麦出版社	小泉健
天国なんてどこにもないよ	関野和寛著、教文館	伊藤悟
加藤常昭説教全集 37 旧約聖書・福音書の説教	加藤常昭著、教文館	鷹澤匠

2022年1月号

巻頭エッセイ：私たちは人生で、何冊の本を読めるのだろうか 大石周平		
詩と詩編にふれるならこの三冊！ 横山良樹		
ひと時の黙想 全き心を求めて	ストーミー・オマーティアン著、日本聖書協会	吉川直美
ひとりて死なせはしない	関野和寛著、日本キリスト教団出版局	石丸昌彦
主はわたしの羊飼い	マルティン・ルター著、教文館	大島征二
子ども、本、祈り	斎藤惇夫著、教文館	笹森田鶴
アナキズムとキリスト教	ジャック・エリュール著、新教出版社	塩野谷恭輔
ユダヤ、帰れ	奥田知志著、新教出版社	関田寛雄
東西の霊性思想	金子晴勇著、ヨベル	片柳榮一
人はどこから来て、どこへ行くのか？	河野勇一著、ヨベル	山口希生
三訂版 ウェストミンスター信仰規準	松谷好明訳、一麦出版社	青木義紀
敵対から共生へ	ジョン・ポール・レデラック著、ヨベル	久保木聡
神学は語る パウロと律法	ヴェロニカ・コベルスキ著、日本キリスト教団出版局	浅野淳博

2021年8月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：自分史の一瞬をとらえた本 ミラ・ゾンターク		
香港のキリスト教を知るにはこの三冊！ 松谷曄介		
信仰生活ガイド 信じる生き方	増田琴編、日本キリスト教団出版局	上林順一郎
悲しみの過去を手放し希望の未来へ	佐藤彰著、日本キリスト教団出版局	千田次郎
聖書とモンゴル	芝山豊他編、教文館	月本昭男
キリスト教の死生観	上田光正著、教文館	芳賀力
加藤常昭説教全集 32 コリントの信徒への手紙一講話	加藤常昭著、教文館	福嶋裕子
逢坂元吉郎	鶴沼裕子著、新教出版社	鈴木範久
心の垣根を越えて	キャスリン・スピック著、一麦出版社	片柳弘史
信仰の神秘	小笠原優著、イー・ピックス	阿部仲麻呂

2021年9月号

巻頭エッセイ：「試験問題」から生涯の愛読書へ 前川裕		
「原発問題」を学ぶならこの三冊！ 久保文彦		
聖書を考える	P.リクール・A.ラコック著、教文館	大貫隆
パウロの生涯と神学	朴憲郁著、教文館	廣石望
教会実務を神学する	山崎龍一著、教文館	古賀博
キリスト教史の学び(下)	越川弘英著、キリスト新聞社	村上みか
M・L・キングと共働人格主義	菊地順著、聖学院大学出版会	松本敏之
マックス・ヴェーバーの生涯と学問	黒川知文著、ヨベル	千葉眞
実践 教会役員	坂本雄三郎著、リトン	清重尚弘
それでも一緒に歩いていく	牧ノ原やまばと学園 50 年誌編集委員会編著、ラグーナ出版	阿部志郎
キリスト教ビギナーズ	崔炳一著、一麦出版社	村瀬義史
岡田稔の神学	木下裕也著、一麦出版社	松田真二
100 年前のパンデミック	富坂キリスト教センター編、新教出版社	山口陽一

2021年10月号

巻頭エッセイ：本との出会いを通しての奇跡 鳥居雅志		
「金と神」について考えるならこの三冊！ 福島揚		
小川修パウロ書簡講義録7 ガラテヤ書講義I	小川修著、リトン	廣石望
花子とアン 村岡花子の甲府時代	深沢美恵子編著、教文館	小檜山ルイ
加藤常昭説教全集 33 コリントの信徒への手紙二講話	加藤常昭著、教文館	菊池美穂子
宗教と理性をめぐる対話	ジョン・ヒック著、教文館	若林裕
ゴシック芸術に学ぶ現代の生きかた	近藤存志著、教文館	藤掛順一
カルヴァンの詩編の神学	H.J.セルダーハウス著、教文館	大石周平
聖なる神の聖なる民—レビ記	大頭眞一著、ヨベル	手島勲矢
謎解きの知恵文学	小友聡著、ヨベル	矢部節

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_systen_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-38 靴紐センター・イマフ	022-223-2736	共用		fcwkw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新富2-2 千葉カリスチャペル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都港区新川1-9-1 日キ協内(外観専門)	03-3280-5663	03-3280-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.bible.jp/~yokohama/s/index.html	sksch@mmva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.cocacn.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kyotan/	kyotan@mtbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekabooks.web.fc2.com/	ochbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai_jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三層ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masyara_107/index.html	sksch@ddokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kebookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2022年8月~2022年9月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
近藤 勝彦	キリスト教教義学 下	A 5	1180	14,300	教文館	8/24
C・G・シユウェンツェル著／波部雄一郎訳	ヘロデ大王	A 5	330	3,300	教文館	8/25
日本キリスト教団出版局編集部編	八木重吉 家族を詩(うた)う	A 5 変	80	1,320	日本キリスト教団出版局	8/25
高橋 秀典	心が傷つきやすい人への福音	四六	248	1,650	ヨベール	8/25
松本 宣郎	初期キリスト教の世界	四六	400	3,300	新教出版社	8/31
宮平 望	旧約聖書 歴史書 一 要約と概説	A 5	254	2,200	新教出版社	8/31
土井 健司	教父学入門 一 ニカイア以前の教父たち	四六	272	2,420	新教出版社	9/12
栗田 隆子	呻きから始まる 一 祈りと行動に関する24の手紙	四六	248	2,200	新教出版社	9/22
川中 仁 編	新約聖書の奇跡物語	四六	216	2,200	リトン	9/13
松本 敏之	ヨハネ福音書を読もう 下 一 神の国への郷愁(サウダージ)	四六	248	2,640	日本キリスト教団出版局	9/15
M・デイペリウス著／辻学監訳／加山宏路、加山久夫、吉田 忍 訳	聖書学古典叢書 福音書の様式史	A 5	390	9,900	日本キリスト教団出版局	9/16
越川 弘英 監修	キリスト教の歴史 おもしろクイズドリル	A 5	96	1,100	日本キリスト教団出版局	9/22
吉岡 容子	少女の命・女性の命、嵐の中から新たな命	新書	192	1,210	ヨベール	9/20
金子 晴勇	キリスト教思想史の諸時代 VI 一 宗教改革と近代思想	新書	272	1,320	ヨベール	9/21
ギュイヨン夫人著／大須賀 沙織 訳	短く簡単な祈りの方法 一 内的祈りの手引き	四六	228	2,640	教文館	9/21
アレクサンドリアのクレメンス著／秋山 学 訳	キリスト教教父著作集 5 アレクサンドリアのクレメンス3 一 バイダゴゴス(訓導者)他	A 5	648	13,200	教文館	9/26
藤原 淳賀 編	大災害の神学 一 東日本大震災国際神学シンポジウム講演録	A 5	148	1,980	キリスト新聞社	9/21

福音と世界

2022年12月号

特集 地方・地域から見た日本の現在

寄稿者 中井淳、日下部達志、稲垣聡一

福井稔、岩村義雄、松田舞

書評 内田樹『レヴィナスの時間論』(島園進)

『好評連載 フッド・スピリチュアルズ』(山下壮起、サンダース&ヤーバー)「教会におけるマイクログレグレーション」(訳・解説 眞下弥生)、「日本的キリスト教」を読む(山口陽一)、ルカ福音書(山崎ランサム和彦)ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

る。こんな私じゃなく、生まれつき罪のないイエス様に生まれたかった。

その子は大人になってからキリスト者になり、礼拝説教のなかでハイデルベルク信仰問答60を聞いた。

問「どのようにしてあなたは神の御前で義とされるのですか」。答「ただイエス・キリストを信じる、まことの信仰によってのみです」。自分の良心がどれ程、お前は神の戒めに背き、何一つ守ることができず、今なお悪に傾き続

予告

本のひろば

2023年1月号

本・批評と紹介

(書評) 井上篤夫著『フルベッキ伝』、英国・ナザレン神学校著『聖化の再発見 上・下』、金子晴勇著『キリスト教思想史の諸時代Ⅵ』、川中 仁編『新約聖書の奇跡物語』他

けて生きていると責めたとしても、「神は、わたしのいかなる功績にもよらずただ恵みによって、キリストの完全な償いと義と聖をわたしに与え、わたしのものとし、あたかもわたしが何一つ罪を犯したことも罪人であったこともなく、キリストがわたしに代わって果された服従をすべてわたし自身が成し遂げたかのようにみなしてください」。今年、家庭内で信仰を強制されて育った宗教二世が注目を集めた。筆者もその一人だったけれど、今も人知れず悩み苦しみ続ける人たちが日本中にいると知った。

昔の私のような子どもたちに伝えたいと願う。あなたはイエス様にならなくてもいい。自分が罪を犯さないためではなく、あなたの罪を引き受けるために、イエス様はこの世に生まれてこられたのだから。そして一緒に、心から嬉しくクリスマスを祝いたい。(石澤)

新しい時代のキリスト教
神学ガイド!



21世紀のキリスト教入門

一つの教会の豊かな信仰
フスト・ゴンサレス 著 神代真砂実／高野佳男 訳
主著『キリスト教史』で知られる著者が書き下ろしたキリスト教教理入門! 教派を超えて受け入れられる信仰の内容を、豊富なたとえを用いながら解説。

● 四六判・並製・224頁・定価2,200円



N・I・ライト新約聖書講解 10 すべての人のためのローマ書 29-16章

N・I・ライト 著 岩上敬人 訳
さまざまな軋轢の中にあつたローマ教会。その一致のためにパウロが語つたメッセージをわかりやすい解説と例話で説き明かし、信仰の根本を見つめ直す。シリーズ第三弾。

● 四六判・並製・196頁・定価2,310円



大いに喜んで

ヨハネの手紙第二、
第三講解説教

説教とは愛の手紙である!

朝岡 勝 著

「私はあなた(あなたがた)を本当に愛しています」と始まる二つのヨハネの手紙。コロナ禍であえぐ教会に愛を注ぎ込んで語つた説教九編を収録。付論「語られ、聴かれ、生きられるみことば——説教を巡る小さな論考」は牧師と信徒が「説教」をめぐる対話をする最良の手引き。

● B6判・並製・160頁・定価1,980円



詩筆集 聖書における光と影

日本キリスト教詩人会 編
咲き継ぐ光のように、逃げ去る影のように——

聖書の至る所に、相対立するかに見える光と影が登場している。光は、神やイエスや希望に向かって立ち、影は、原罪や絶望へと傾き淀もうとし、光も影も、そのつど人間の在りように濃淡を添えて呈示される。17名の詩人たちが本書に集い、競演する詩集。

● B6判・上製・160頁・定価1,980円



日々を生きる力

あなたを励ます聖書の言葉 366

片柳弘史 著

大好評『始まりのことば』に続く新作!

一日に一頁、12万人を超すツイッターのフォロワーを持つ神父のわかりやすい解説とともに味わう聖書の言葉。2000年の時を越えあなたに届く人生のエール。

● A6判・並製・390頁・定価990円



本
の
ひ
ろ
ば
一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇二二年一月一日発行 毎月一回一日発行
第七八〇号 二〇二二年二月号

良き力に不思議に 守られて

宮田光雄著

10月25日

神への根源的な信頼に生きるとは何を意味するのか。単行本未収録の珠玉の説教

5編の他「メルヘンの森で神と出会う」、神表現の極限を追求したユニークな現代造形作家バーネット・ニューマンを巡る論考など7編を収録。

◆四六判・定価2420円



反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

兩宮栄一著

クライザウ・サークルの軌跡

10月15日

敗戦後の再建構想を練って刑死したクライザウ・サークルの中心人物。その人物像とキリスト教信仰を明らかにする。著者の遺作となった。

◆四六判・定価3850円



「私にとってフェミニズムと信仰はどちらも必要なものです」と語る著者が、自らの生の歩みを、聖書の言葉に導かれながら綴る。

◆四六判・定価2200円

ユダよ、帰れ

奥田知志著

2022年キリスト教書店大賞受賞！

祈りと行動に関する
24の手紙

『ぼそぼそ声のフェミニズム』に続く第二弾！

◆四六判・定価1980円



たどりつくまで

ロバと三人の旅

[文] A. ブース [絵] S. アッシャー
[訳] 真下弥生

危険な権力者に追われ、安住の地に旅するロバと親子三人。聖家族の《エジプト逃避》を現代の難民に重ね合わせたユニークなクリスマス絵本。 ◆A5変判・定価1650円



2023年 渡邊禎雄版画カレンダー 発売中

プレゼントにも最適！

マグダラのマリアが復活者と出会う劇的な場面を澄明に描き切った傑作。ご注文はキリスト教書店もしくは小社まで。

◆定価550円

本のひろば.com



定価七八円(税抜七円) (¥63円)
一年分一三〇〇円(送料共)